

閉会中の委員会活動

総務企画委員会

東京電力株式会社常陸那珂火力発電所、日立市役所

火力発電所の概要と運転の状況を調査

東京電力株式会社常陸那珂火力発電所において、火力発電所の概要と運転の状況について説明を受けました。

この火力発電所は、石炭を燃料とする発電所として平成15年12月に運転が開始されました。東京ドーム約30個分にあたる約141万平方メートルの規模を有するこの発電所には、それぞれ100万KWを出力する1号機と2号機の整備が計画されており、現在は1号機が運転されています。委員からは、石油と比較したコスト面での優位性などについて質問があり、偏在性が低く価格が安定しているため、長期的には優位であるとの答えがありました。

次に、日立市役所において、まちづくり特例市の指定に伴う権限移譲の効果について説明を受けました。

まちづくり特例市制度は、市町村が自主的・自立的にまちづくりに取り組めるよう、地域の中核を担う一定規模以上の市を対象として、土地利用や福祉関係などの主要事務を移譲する制度です。平成14年度に指定を受けた日立市

においては、事務処理期間の短縮や窓口の一元化が図られるなど、住民サービスの向上に繋がっています。委員からは、県との今後の人事交流の進め方などについて質問がありました。



東京電力(株)常陸那珂火力発電所で施設の概要説明を受ける

環境商工委員会

下館市の商店街、真壁町の街並み、石材産地(岩瀬町)

歴史的資源を生かしたまちづくりを調査



明治に建造した住宅前で家の造りなどについて伺う

下館市「しもだて地域交流センター『アルテリオ』」において、中心市街地の活性化策について、商工会議所や市の職員から稲荷町通りのまちづくりや中心市街地活性化基本計画の概要の説明を受けました。当地区は、官公庁や民間の施設を周辺の道や広場などと連携して整備し、魅力と賑わいを創出するシビックコア地区とされ、来年2月には国の合同庁舎が着工されます。

次に、真壁町中央公民館において、登録文化財を中心とした街並みを生かしたまちづくりについて、真壁町助役やまちづくり活動に取り組んでいる蔵布都(くらふと)代表などから取組み経緯や活動状況などについて説明を受けた後、街並みを視察しました。委員から各団体の連携の状況について質問があり、行政、商工会、ボランティア、石材業者など各団体の活動者が会員となる組織があり、意見交換をしながら進めているとの答えがありました。

最後に、岩瀬町において、石材産地のイメージアップと石材副産物の有効利用を目的として石材関係者が取り組む石材研磨粉を培土として利用したトマト栽培について関係者から説明を受け、実験プラントを見学しました。委員からは、現在の採算性、他種目への応用の可能性などたくさんの質問がありましたが、糖度が13度にも達するトマトに一様に驚きました。

保健福祉委員会

潮来保健所、神栖町木崎地区、鹿島病院

飲用井戸のヒ素汚染で住民の声を聞く

潮来保健所において、神栖町における飲用井戸のヒ素汚染について、発生から現在までの経過、健康被害対策の内容、住民の相談内容、汚染源の調査状況や地元の対応などについて説明を受けました。医療手帳の交付状況は平成16年4月30日現在で申請者415人、うち交付者数が116人となっています。

委員からは、転居された住民に対する追跡調査の実施や、今回の事件についての早急な調査と住民への報告に向けた努力などについて質問がありました。県は、転居された方については、転居先を調査して健康調査を実施していると答え、また、現在分かっている状況について、出来るだけ早期に説明する場を作れるよう環境省とも協議していきたいと答えました。

その後、神栖町木崎地区を訪れ、住民の方の声を聞きました。

次に、鹿嶋市の(財)鹿島病院を訪れ、県立医療大学附属病院の大田仁史院長から茨城県における地域リハビリテーションの支援体制について講話を受けた後、地域リハ・ステーションである鹿島病院の概要について説明を受けました。

鹿島病院では2市2町1村を対象地域として理学療法士や作業療法士が訪

問リハビリテーションを実施しているほか、市町村の機能回復訓練事業や社会福祉施設への技術支援などに取り組んでいます。



近隣の住民の方から現況や要望を伺う